

学力向上に係る効果的事例

ノート指導の充実と学習形態の工夫

【杉戸町教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 小学校、全学年、算数
- 2 ねらい

算数における確かな学力の向上、基礎学力の向上への取組として、ノート指導の充実と学習形態の工夫を図る。

3 取組内容

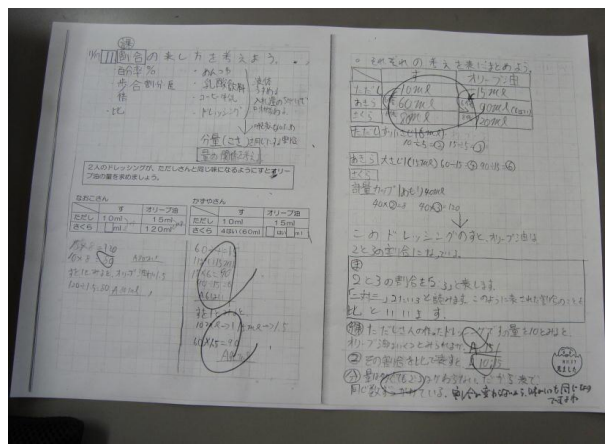
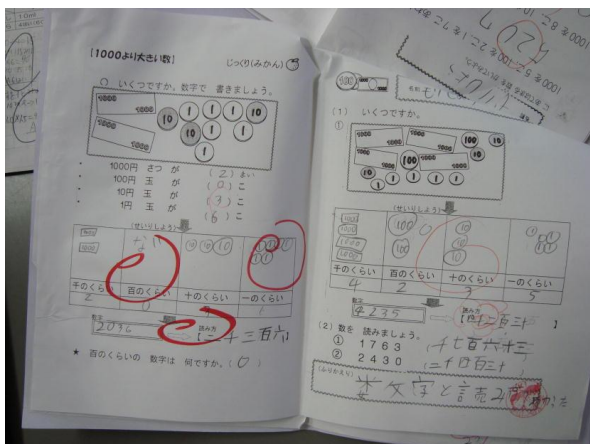
(1) 児童の「わかったこと」がより明確になるようなノート指導の取組

どのようなノート指導をしていけば、児童に考える力がつき、より主体的な学習ができるか継続して取り組んでいる。まず、黒板の板書の工夫、キーワード、キーセンテンスをカード化し掲示している。また、ワークシート、プリントを用意したことで主体的に取り組む、自分の思考をより分かりやすく表現できるように指導している。

さらに、自分の考えを正確に伝えるために、誰でも理解できるような、図や表を用いたノートの書き方を実践している。書くことで、発表することにも意欲が持てるようになってきている。「まとめ」の段階の「わかったこと」では、自分の言葉で本時のまとめを書かせるようにし、書く力や数学的な思考力が身につくよう取り組んでいる。

(2年生のノートの例)

(6年生のノートの例)



(2) よりよいものに高めていく学習形態の工夫

自力解決したものを、話し合いの場で、よりよいものに練り上げていく時間と場を確保している。よさが何処にあるのか、なぜその解決方法を選択したのか話し合い、よりよい価値に気づかせせる。また、練習問題を解くことにより、さらに感得させていく。このようなことを、日々の授業で繰り返し実践している。

(3) ドリル学習の重視

よさに気づくためには、基礎・基本や前時の学習が身につけていることが必要である。そこで、業前の時間「はげみ学習算数」の時間や、毎日の宿題の中で、計算問題を解いている。ドリルについては、最低2回以上取り組むよう全校で共通理解している。

4 成果と課題

児童の「わかったこと」がより明確になるようなノート指導の取組により、児童一人一人に「書く力」が身につく、「数学的な思考力」が向上した。